

学生確保の見通し等を記載した書類

平成 28 年 3 月

国立大学法人大分大学

目 次

1	学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
(1)	学生確保の見通し	2
①	定員充足の見込み	2
②	定員充足の根拠となる調査結果の概要	3
③	学生納付金の設定の考え方	5
(2)	学生確保に向けた具体的な取組状況	5
2	人材需要の動向等社会の要請	6
(1)	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	6
(2)	上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	6
①	産業界・学界からの要請	7
②	大分県の政策及び地域社会からの要請	7
③	卒業後の進路に関する調査結果の概要	8
3	添付資料	
資料 1	「大分大学「理工学部」（仮称）設置に関するニーズ調査」結果報告書【高校生対象調査】	
資料 2	「大分大学「理工学部」（仮称）設置に関するニーズ調査」結果報告書【企業対象調査】	
資料 3	「大分大学「理工学部」（仮称）設置に関するニーズ調査」リーフレット	

1 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し

①定員充足の見込み

大分大学理工学部では、工学と理学を融合し、自らの課題を探究する高い学習意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たすゆるぎない基礎学力と高い専門知識を備えるとともに、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を養成する。

このため、現在の工学部5学科を理工学部2学科へ再編・集約することで、学科及び分野の枠を超えた融合教育を容易にし、「共創理工学科」では、「理学の専門性を究めつつ工学の素養を併せ持つ人材」（理工学系）を、また、「創生工学科」では「工学の専門性を究めつつ理学の素養を併せ持つ人材」（工学系）の育成を行うこととした。

各コース定員の考え方を以下に、また、学部の定員構成の概要を後続の表に示す。

創生工学科の各コースの定員設定において、福祉メカトロニクスコースで従来の30名から5名の増員としたのは、ミッションの再定義で工学部が医工連携をミッションの一つとしていること、本学が福祉を柱とする大学であり福祉機器等の福祉に関連する研究を当該コースで今後も推進していくこと、の2点を根拠とする。建築学コースの定員は、一級建築士の受験資格が得られることで、県内の企業からの卒業生への要望が高いことから50名の維持とした。一方、機械コース、電気電子コースでは、入口および出口での現人数の裏付けを確認しているものの、コース新設に伴い必要定員を確保するため、また、今回の改組により当該コースから新コースへ、あるいはコース間での教員の異動が行われたことから、いずれも5名の減の75名とした。

共創理工学科の各コースの定員設定において、従来の工学部の学科を引き継ぐ情報システムコース、及び応用化学コースでは、教室の許容スペース、学生実験を行う機器数等を鑑みて教育の質を維持するのに適した5名の減のそれぞれ65名と55名とした。一方、新しく設置する数理科学コース及び自然科学コースについては、マンツーマンでの指導が必要なセミナー、あるいは演習指導（数理科学輪講等）があり、グループ学習を遂行する上で最適な人数を設定しており、教員数とその教育効果の観点から、それぞれ15名の定員とした。

この定員については、後述するアンケート調査の結果等から、充足できる見込みは十分である。なお、アンケート調査時点では「工学科」、及び、「理工学科」であった学科名称を、それぞれ「創生工学科」、及び、「共創理工学科」へと変更している。

＜理工学部の入学定員，収容定員＞

学科名称	コース名称	入学定員	収容定員
創生工学科 (235名)	機械コース	75名	300名
	電気電子コース	75名	300名
	福祉メカトロニクスコース	35名	140名
	建築学コース	50名	200名
共創理工学科 (150名)	数理科学コース	15名	60名
	知能情報システムコース	65名	260名
	自然科学コース	15名	60名
	応用化学コース	55名	220名
合 計		385名	1,540名

②定員充足の根拠となる調査結果の概要

受験生からのニーズを把握するため、第三者機関である「株式会社進研アド」への委託による「大分大学「理工学部」設置に関するニーズ調査」を実施した。なお、今回の調査は、経済学部の「事業共創学科設置構想」と併せて実施していることを付記する。

（【資料1】「理工学部」（仮称）設置に関するニーズ調査」結果報告書【高校生対象調査】参照）

調査対象は、進学実績をもとに、大分県、福岡県、長崎県、熊本県、宮崎県の高等学校44校を抽出し、理工学部開設予定年度である平成29年度に大学1年生となる、平成27年度現在の高校2年生を対象にアンケート調査を実施した。

調査期間は、平成27年11月24日から平成27年12月11日までである。

調査方法は、事前に本学から各対象校へ調査への協力を依頼し、了解を得た後、第三者機関からアンケート調査用紙を送付し、本学理工学部の概要を提示した上で、高等学校内でホームルーム等を利用して、高等学校教員による配付、回収を行った。

調査結果の回収状況は、対象とした44校（配布数9,917）から、8,320人の回答が得られ、回収率は、83.9%であった。

調査結果によると、回答が得られた8,320人のうち学問系統として理工学部の学問内容と関連する、「工学」は22.1%、「理学」は12.5%であった。

理工学部の特色（学びの内容、養成する人材像）に対して「とても魅力を感じる」、及び、「ある程度魅力を感じる」を合わせた割合は（これを以下では「魅力度」と呼ぶ）全

での項目で40%を越えている。魅力度が高い上位2者は、「E. <工学科 機械コース>理学の基礎に基づく最先端の機械工学とエネルギー・環境科学等を学び、高効率で環境低負荷な自動車・ロボットなど機械関連の設計・開発ができる技術者・研究者を養成する。」の53.3%、及び、「H. <工学科 建築学コース>理学の基礎に基づく最先端の建築構造・材料施工・環境工学と建築設計・都市計画等を学び、安全でサステナブルな建築とまちづくりに貢献できる建築士・技術者・研究者を養成する」の51.3%、である。

また、回答が得られた8,320人のうち、大分大学を「受験したいと思う」と回答した人は2,165人（26.0%）であった。この大分大学受験意向者2,165人のうち、理工学部への入学意向は次表のとおり、入学定員数に対する入学意向者数の割合は工学科で2.0倍、理工学科で2.3倍であった。全コースともに入学定員数を上回る入学意向者数が認められ、特に、新設の理学系2コースについては、数理科学コースが4.9倍、自然科学コースが6.1倍と、入学定員数を大きく超えている。

<理工学部への入学意向（大分大学受験意向者2,165人中）>

学部学科名称	コース名称	入学意向	
理工学部 工学科	機械コース	157人	7.3%
	電気電子コース	124人	5.7%
	福祉メカトロニクスコース	45人	2.1%
	建築学コース	142人	6.6%
	工学科 計	468人	21.6%
理工学部 理工学科	数理科学コース	73人	3.4%
	知能情報システムコース	96人	4.4%
	自然科学コース	92人	4.3%
	応用化学コース	86人	4.0%
	理工学科 計	347人	16.0%
理工学部 計		815人	37.6%
その他の学部学科		1,350人	62.4%
合 計		2,165人	100.0%

なお、前述のとおり、今回の調査は、本学の経済学部の「事業共創学科設置構想」と併せて実施している。また、平成27年度入学試験実績によれば、約30%の生徒が今回の調査対象外から工学部を受験しているため、実際は、上記をさらに上回る入学意向が見込まれる。

以上より、理工学部においては、十分な志願者数を確保し、定員を充足できるものと判

断される。

③学生納付金の設定の考え方

他の学部（教育学部，経済学部，医学部，福祉健康科学部）と同様に，「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に定める標準額と同額に設定する。

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保につなげるため，以下の取組を推進している。

①オープンキャンパス

本学では，毎年 8 月初旬にオープンキャンパスを開催しており，例年 3,100 名を超える参加がある。また，10 月と 11 月の学園祭時に，学生によるオープンキャンパスを開催しており，実験室等の見学，模擬授業，キャンパスツアーなどを実施している。いずれも参加者から好評を得ているため，学生確保のための PR には絶好の機会であり，かなりの効果が期待できる。

②入試懇談会

本学では，毎年 7 月に，多数の受験生を本学に送り出してもらっている高等学校や予備校の進路指導担当教諭等を対象とした入試懇談会を開催しており，従来の工学部から理工学部への改組について説明するとともに，理工学部の魅力を PR することができ，学生確保の効果が期待できる。

③高校訪問

平成 27 年 12 月に，県内の高等学校を訪問し，高校生や企業を対象とした理工学部の設置に関するニーズ調査と併せて，理工学部の紹介を行った。今後は，大分県内や九州地区に限らず，全国の高等学校（本学に志願実績のある高等学校等）を訪問し，直接，高校生や教諭に対して，理工学部の特色のある教育等について説明することにより，理工学部の魅力を PR することができ，学生確保の効果が期待できる。

④説明会の開催

全国から受験生を確保するため，大手予備校を訪問し，講師や予備校生に対する説明会を実施する。更に，県別の説明会も開催する計画である。高校訪問と同様，理工学部の魅力を PR することができ，学生確保の効果が期待できる。また，大分市をはじめ，九州内各地で開催される受験産業主催の進学説明会に参加して，理工学部の説明を実施するとともに，7 月開催予定の九州地区国立大学進学説明会においても説明することにより，学生確保の効果が期待できる。

⑤リーフレット、広報誌等各種媒体による広報

平成28年度初めに、理工学部を紹介するリーフレットを作成し、県内外の公立高等学校へ配布する。更にオープンキャンパスや説明会等で配布する。また、本学が年3回発行し、県内の高校をはじめ県外の高校や関係機関等へ広く配布している広報誌「BUNDA I O I T A」において、理工学部PRのための特集コーナーを設けた。その他にも、新聞や受験雑誌への掲載や、ビジネス誌の大学関連企画に併せて掲載することにより、宣伝効果の増加が期待できる。

⑥ウェブサイトによる広報

本学のホームページ及び携帯サイトに、理工学部の設置構想に関するページを設け、理念や概要等について紹介する。本学ホームページは1日約6,200ページビューがあり、ホームページでの広報は、かなりの効果が期待できる。

⑦高等学校との連携事業等を通じた広報

本学と大分県内の高等学校との協力・連携を具体的に推進するために設置した高大連携推進ワーキンググループにおいて、理工学部について丁寧な説明を行う。また、進路選択に役立ててもらふことや高等学校との連携を深めることを目的に毎年実施している、在学生在が「キャンパス大使」として出身高校を訪問する取組において、在学生在へ事前の十分な説明を行った上で、在在学生から高校生へ理工学部の魅力を語ってもらふ。さらに、毎年開催している高等学校からの大学訪問等において、理工学部についての説明を行い、特に、保護者の大学訪問の機会を増やすよう、高等学校に働きかける。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

理工学部では、工学と理学を融合し、自らの課題を探求する高い学習意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たすゆるぎない基礎学力と高い専門知識を備えるとともに、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を育成する。

社会のニーズに応え地球規模の複合的課題を解決し、持続可能な社会実現のための原動力となる人材育成を行うため、前述のとおり、工学の専門性を究めつつ理学の素養を併せ持つ人材育成を行う「創生工学科」、及び、理学の専門性を究めつつ工学の素養を併せ持つ人材育成を行う「共創理工学科」の2学科を置く。さらに、理工学部の専門性を担保するために、各学科にそれぞれ4コースを設置している。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの

客観的な根拠

①産業界・学界からの要請

これまでの日本の経済発展を進めるための製造を中心とした産業界では、大量生産、大量消費、省力化を前提として経済性を重視した技術開発が行われ、大学でもそのための人材養成を行ってきた。近年、これらの人間活動によって環境破壊、食糧・エネルギー危機が起こっていることから、地球規模の持続可能性を実現するための研究開発が推進され、現代から未来に向けた科学技術のテーマとして、持続可能な社会の実現が注目されている。

第4期科学技術基本計画において、「環境・エネルギー・食料・感染症、地震等の災害のような世界規模の多様な問題に世界に先駆けて対峙するとともに、その経験と成果を世界と共有すること」が謳われている。また、文部科学省の第2期教育振興基本計画において、「グローバル化の進展などにより世界全体が急速に変化する中であって、産業空洞化や生産年齢人口の減少など深刻な諸課題を抱える我が国は、極めて危機的な状況にあり、東日本大震災の発生は、この状況を一層顕在化・加速化させた。これらの動きは、これまでの物質的な豊かさを前提にしてきた社会の在り方、人の生き方に大きな問いを投げ掛けている。これらの危機を乗り越え、持続可能な社会を実現するため、成熟社会に適合した新たな社会モデルを構築していくことが求められている」とされている。このため、理工系人材教育においても、このような観点によるパラダイムシフトを行い、それに基づいて生涯の糧となる「自立と創造性マインド」を醸成する人材養成教育が急務となっている。

②大分県の政策及び地域社会からの要請

地方においては、エネルギー、食の地産地消、社会保障の持続性、生活環境の安心と安全性の保持などが持続可能性の問題として捉えられている。大分県においても、科学技術基本法に基づき、国の科学技術振興政策との整合性を図りつつ、地域が持つ多様性や独自性を積極的に活用した科学技術振興施策の方向性を示すものとして「第2期大分県科学技術振興指針」を策定し、1) 独創性と活力ある産業の創出、2) 安心・安全な生活・環境の創出、3) 科学技術を支える基盤づくり、4) 科学技術を担う人づくりを掲げるとともに、製造業や農林水産業、情報サービス業などの地域産業において、再生可能エネルギーの導入、ICTの活用促進と環境整備、農業の6次産業化、東九州メディカルバレー、防災・減災を重点課題としている。

特に大分県は一村一品運動により、大分県の農林水産資源はすでに全国的な知名度を持つようになり、食品産業が地場産業の特徴の1つとなっている。それらを6次産業化（生産から販売にいたるまで一括管理、ブランド力の強化、海外への戦略的進出）することにより、恒常的に利潤を生み出し、地域の発展につなげるしくみを構築することが期待されている。また、大分県は農林水産業県であると同時に工業県でもある。地域の将来のためには、それらを独立したものではなく地域の産業の両輪として複合的に発展させなければ

ならない。これらの地域の諸課題の解決をめざした地域の知の拠点として本学部の寄与が益々期待されている。

また、地元企業・団体から、大分大学に期待されているのは、1) 医療・介護機器産業拠点づくりのための医工連携、2) 地場産業である醸造・発酵産業に関連した食料科学領域の先進的な研究開発、3) 電磁力を応用した省エネ・高効率型新産業の創出、4) 地域の防災・減災の取り組み、であり、これらはすべて持続的発展を続ける地域社会を構築するために必要不可欠なものである。

県内高校・各種団体・企業（地場産業）等からの理工系学部設置への要望が届いている。工学部への進学者が多い県内17高校から理学系学部設置への強い要望が聞かれた。また、県立学校長協会、県高等学校進路指導協議会、理科及び数学部会からも理学系学科の設置が求められた。この他、県工業連合会、産官学連携推進機構連絡会議、県商工労働部工業振興課、県産業科学技術センターからも同様に設置を望む声が聞かれた。また地場産業から、食品業界から新製品の創出や科学的根拠づけ、品質管理への生物統計の応用、企業化のためのビッグデータによるマーケティング分析、さらに県内で力を入れている分野である自動車、福祉・医療、LSI産業に寄与するために複雑なシステムなどに対応できる人材養成が期待され、卒業後の就職についても積極的に採用する旨の意見が出されている。さらに、オープンキャンパス等の際に行った高校生へのアンケート調査結果においても、理工学部の魅力を感じ、興味を持つ生徒が多いことが明らかとなっている。

③卒業後の進路に関する調査結果の概要

卒業後の進路に関して、理工学部への改組構想に基づき、卒業生の主な就職先となると考えられる企業からのニーズを把握するため、第三者機関である「株式会社進研アド」への委託による「大分大学理工学部」（仮称）設置に関するニーズ調査」を実施した。

（【資料2】「大分大学理工学部」（仮称）設置に関するニーズ調査」結果報告書【企業対象調査】参照）

調査対象は、大分大学卒業生の就職先として想定される全国の企業1,988社における人事関連業務担当者である。

調査期間は、平成27年11月24日から平成27年12月11日までとした。

調査方法は、調査対象とした企業へ、第三者機関からの郵送による調査票の送付及び回収とした。

調査結果の回収状況は、対象とした1,988社のうち665社から回答が得られ、回収率は、33.5%であった。

回答企業の本社所在地は、東京都（26.8%）、大分県（15.9%）、福岡県（15.9%）、大阪府（7.7%）、愛知県（4.7%）の順で、北海道から沖縄まで全国に分布している。業種は、製造業（24.1%）、卸売・小売業（15.9%）、建設業（13.8%）、情報通信業（13.7%）、サービス業（11.7%）の順である。今回、経済学部事業創成学科の調査をあわせて実施したため、金融・保険業（4.5%）や飲食店・宿泊業（1.2%）等の業種も含めている。

調査結果によると、回答が得られた665社のうち、理工学部コースごとの特色について、「必要だと思う」と回答した企業は、「工学部 機械コース」で95.8%、「同 電気電子工学コース」で94.9%、「同 福祉メカトロニクスコース」で92.6%、「同 建築学コース」で92.3%、「理工学科 数理科学コース」で88.9%、「同 知能情報システムコース」で92.2%、「同 自然科学コース」で86.8%、「同 応用化学コース」で91.7%と、理工学科2コースで90%を僅かに下回ったものの、他の6コースについては全て90%を超え、理工学部で養成する人材への社会的需要がうかがえる。

なお、90%を下回った理学系2コースについては、予め、理学系分野に対するこうした社会的需要を想定し、ともに定員を15名に設定することで就職に備えている。

回答が得られた665社における、理工学部卒業生への採用意向及び採用想定人数は次の表のとおりである。なお、前述の社会的要請が90%を若干下回った理学系2コースについては、入学定員15名に対し平均28.9倍の想定採用人数であり、他の6コースの8.5倍～13.1倍（平均10.2倍）を大きく上回る。従って、理工学部全コースの卒業生に対する採用意向は十分高いことが明らかとなった。

<理工学卒業生への採用意向及び採用想定人数（回答のあった665社中）>

学部学科名称	コース名称	採用意向		採用想定 人数/年
		企業数	割合	
理工学部 工学科	機械コース	496企業	74.6%	733名程度
	電気電子コース	505企業	75.9%	731名程度
	福祉メカトロニクスコース	380企業	57.1%	458名程度
	建築学コース	391企業	58.8%	562名程度
理工学部 理工学科	数理科学コース	376企業	56.5%	453名程度
	知能情報システムコース	429企業	64.5%	567名程度
	自然科学コース	355企業	53.4%	415名程度
	応用化学コース	397企業	59.7%	469名程度

以上、社会的、地域的な人材需要等の動向と卒業後の進路に関する調査結果を総合的に見て、理工学部における卒業後の進路は安定的に確保できると判断される。

大分大学 「理工学部」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

平成28年3月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2017年4月開設予定の大分大学「理工学部」(仮称)新設構想に関して、高校生のニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数	9,917人 (44校)
	回収数 (回収率)	8,320人 (44校) (83.9%)
調査時期		2015年11月24日(火)～2015年12月11日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校種別・高校所在地・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問系統・理工学部の特色に対する魅力度・新学部・学科を備えた大分大学への受験意向・新学部・学科・コースへの入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、大分大学の新学部である「理工学部」に対する需要を確認するための調査として設計したため、大分大学の主な学生募集エリアである福岡県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、8,320人から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が48.1%、「女性」が51.6%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が93.8%、「私立」が6.2%である。
- 回答者の在籍高校所在地は大分大学の学生募集の中心である「大分県」が66.0%。次いで多いのが「長崎県」の15.6%である。
- 回答者の所属クラスは「理系クラス(理系コース)」が44.8%、「文系クラス(文系コース)」が39.0%である。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国立大学に進学」が62.8%で最も高い。次に「公立大学に進学」が28.6%で高い。国立大学への進学志望者が多いことから、新学部がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統は、理工学部の学問内容と関連する、「工学」は22.1%、「理学」は12.5%である。

高校生対象 調査結果まとめ

理工学部の特徴に対する魅力度

- 理工学部の特徴に対する魅力度(※)は、全ての項目で4割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「E. <工学科 機械コース>理学の基礎に基づく最先端の機械工学とエネルギー・環境科学等を学び、高効率で環境低負荷な自動車、ロボットなど機械関連の設計・開発ができる技術者・研究者を養成する。」(53.3%)である。次いで、「H. <工学科 建築学コース>理学の基礎に基づく最先端の建築構造・材料施工・環境工学と建築設計・都市計画等を学び、安全でサステイナブルな建築とまちづくりに貢献できる建築士・技術者・研究者を養成する。」(51.3%)である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」＋「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

新学部・学科を備えた大分大学への受験意向

- 理工学部を備えた大分大学を「受験したいと思う」と答えた人は26.0% (2,165人)である。

高校生対象 調査結果まとめ

理工学部 工学科 機械コースへの入学意向

- 理工学部を備えた大分大学を「受験したいと思う」と答えた2,165人のうち、理工学部 工学科 機械コースへの入学意向を示した人は、7.3% (**157人**)であり、入学定員75人を上回っている。以下は属性別の結果である。

◇高校所在地別

- 大学所在地である「大分県」の高校在籍者からの理工学部 工学科 機械コースへの入学意向は6.9% (1,630人中、**112人**)。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」の理工学部 工学科 機械コースへの入学意向は13.9% (1,066人中、**148人**)。

◇高校卒業後の希望進路別

- 大分大学を受験・入学する可能性が高い「国立大学に進学」を考えている回答者の理工学部 工学科 機械コースへの入学意向は7.9% (1,769人中、**139人**)。

◇興味のある学問系統別

- 理工学部 工学科 機械コースと関連のある「工学」に興味がある回答者の入学意向は23.4% (611人中、**143人**)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇理工学部の特色魅力度別

- 理工学部 工学科 機械コースの特色である「特色E」に魅力を感じた回答者の入学意向は、11.1% (1,384人中、**154人**)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

理工学部 工学科 電気電子コースへの入学意向

- 理工学部を備えた大分大学を「受験したいと思う」と答えた2,165人のうち、理工学部 工学科 電気電子コースへの入学意向を示した人は、5.7% (124人)であり、入学定員75人を上回っている。以下は属性別の結果である。

◇高校所在地別

- 大学所在地である「大分県」の高校在籍者からの理工学部 工学科 電気電子コースへの入学意向は5.2% (1,630人中、84人)。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」の理工学部 工学科 電気電子コースへの入学意向は10.4% (1,066人中、111人)。

◇高校卒業後の希望進路別

- 大分大学を受験・入学する可能性が高い「国立大学に進学」を考えている回答者の理工学部 工学科 電気電子コースへの入学意向は6.2% (1,769人中、109人)。

◇興味のある学問系統別

- 理工学部 工学科 電気電子コースと関連のある「工学」に興味がある回答者の入学意向は18.3% (611人中、112人)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇理工学部の特色魅力度別

- 理工学部 工学科 電気電子コースの特色である「特色F」に魅力を感じた回答者の入学意向は、9.9% (1,228人中、121人)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

理工学部 工学科 福祉メカトロニクスコースへの 入学意向

- 理工学部を備えた大分大学を「受験したいと思う」と答えた2,165人のうち、理工学部 工学科 福祉メカトロニクスコースへの入学意向を示した人は、2.1% (45人)であり、入学定員35人を上回っている。以下は属性別の結果である。

◇高校所在地別

- 大学所在地である「大分県」の高校在籍者からの理工学部 工学科 福祉メカトロニクスコースへの入学意向は2.2% (1,630人中、36人)。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」の理工学部 工学科 福祉メカトロニクスコースへの入学意向は3.2% (1,066人中、34人)。

◇高校卒業後の希望進路別

- 大分大学を受験・入学する可能性が高い「国立大学に進学」を考えている回答者の理工学部 工学科 福祉メカトロニクスコースへの入学意向は1.6% (1,769人中、29人)。

◇興味のある学問系統別

- 理工学部 工学科 福祉メカトロニクスコースと関連のある「工学」に興味がある回答者の入学意向は3.1% (611人中、19人)、「医療技術・リハビリテーション学」に興味がある回答者の入学意向は7.0% (328人中、23人)であり、福祉メカトロニクスコースと関連のある学問に興味がある回答者全体でみると、入学定員数を上回る入学意向がみられた。

◇理工学部の特色魅力度別

- 理工学部 工学科 福祉メカトロニクスコースの特色である「特色G」に魅力を感じた回答者の入学意向は、3.4% (1,209人中、41人)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

理工学部 工学科 建築学コースへの入学意向

- 理工学部を備えた大分大学を「受験したいと思う」と答えた2,165人のうち、理工学部 工学科 建築学コースへの入学意向を示した人は、6.6% (142人)であり、入学定員50人を上回っている。以下は属性別の結果である。

◇高校所在地別

- 大学所在地である「大分県」の高校在籍者からの理工学部 工学科 建築学コースへの入学意向は6.0% (1,630人中、98人)。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」の理工学部 工学科 建築学コースへの入学意向は11.1% (1,066人中、118人)。

◇高校卒業後の希望進路別

- 大分大学を受験・入学する可能性が高い「国立大学に進学」を考えている回答者の理工学部 工学科 建築学コースへの入学意向は6.8% (1,769人中、120人)。

◇興味のある学問系統別

- 理工学部 工学科 建築学コースと関連のある「工学」に興味がある回答者の入学意向は19.1% (611人中、117人)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇理工学部の特色魅力度別

- 理工学部 工学科 建築学コースの特色である「特色H」に魅力を感じた回答者の入学意向は、10.7% (1,322人中、141人)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

理工学部 理工学科 数理科学コースへの入学意向

- 理工学部を備えた大分大学を「受験したいと思う」と答えた2,165人のうち、理工学部 理工学科 数理科学コースへの入学意向を示した人は、3.4% (**73人**)であり、入学定員15人を上回っている。以下は属性別の結果である。

◇高校所在地別

- 大学所在地である「大分県」の高校在籍者からの理工学部 理工学科 数理科学コースへの入学意向は3.1% (1,630人中、**51人**)。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」の理工学部 理工学科 数理科学コースへの入学意向は6.1% (1,066人中、**65人**)。

◇高校卒業後の希望進路別

- 大分大学を受験・入学する可能性が高い「国立大学に進学」を考えている回答者の理工学部 理工学科 数理科学コースへの入学意向は3.6% (1,769人中、**64人**)。

◇興味のある学問系統別

- 理工学部 理工学科 数理科学コースと関連のある「理学」に興味がある回答者の入学意向は14.0% (328人中、**46人**)と、入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇理工学部の特色魅力度別

- 理工学部 理工学科 数理科学コースの特色である「特色I」に魅力を感じた回答者の入学意向は、5.9% (1,127人中、**67人**)と予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

理工学部 理工学科 知能情報システムコースへの 入学意向

- 理工学部を備えた大分大学を「受験したいと思う」と答えた2,165人のうち、理工学部 理工学科 知能情報システムコースへの入学意向を示した人は、4.4% (**96人**)であり、入学定員65人を上回っている。以下は属性別の結果である。

◇高校所在地別

- 大学所在地である「大分県」の高校在籍者からの理工学部 理工学科 知能情報システムコースへの入学意向は4.2% (1,630人中、**68人**)。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」の理工学部 理工学科 知能情報システムコースへの入学意向は8.3% (1,066人中、**88人**)。

◇高校卒業後の希望進路別

- 大分大学を受験・入学する可能性が高い「国立大学に進学」を考えている回答者の理工学部 理工学科 知能情報システムコースへの入学意向は5.0% (1,769人中、**88人**)。

◇興味のある学問系統別

- 理工学部 理工学科 知能情報システムコースと関連のある「工学」に興味がある回答者の入学意向は12.9% (611人中、**79人**)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇理工学部の特色魅力度別

- 理工学部 理工学科 知能情報システムコースの特色である「特色J」に魅力を感じた回答者の入学意向は、7.4% (1,251人中、**93人**)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

理工学部 理工学科 自然科学コースへの入学意向

- 理工学部を備えた大分大学を「受験したいと思う」と答えた2,165人のうち、理工学部 理工学科 自然科学コースへの入学意向を示した人は、4.2% (92人)であり、入学定員15人を大きく上回っている。以下は属性別の結果である。

◇高校所在地別

- 大学所在地である「大分県」の高校在籍者からの理工学部 理工学科 自然科学コースへの入学意向は3.5% (1,630人中、57人)。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」の理工学部 理工学科 自然科学コースへの入学意向は7.4% (1,066人中、79人)。

◇高校卒業後の希望進路別

- 大分大学を受験・入学する可能性が高い「国立大学に進学」を考えている回答者の理工学部 理工学科 自然科学コースへの入学意向は4.0% (1,769人中、71人)。

◇興味のある学問系統別

- 理工学部 理工学科 自然科学コースと関連のある「理学」に興味がある回答者の入学意向は12.2% (328人中、40人)、「工学」に興味がある回答者の入学意向は4.9% (611人中、30人)であり、入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇理工学部の特色魅力度別

- 理工学部 理工学科 自然科学コースの特色である「特色K」に魅力を感じた回答者の入学意向は、6.9% (1,255人中、86人)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

理工学部 理工学科 応用化学コースへの入学意向

- 理工学部を備えた大分大学を「受験したいと思う」と答えた2,165人のうち、理工学部 理工学科 応用化学コースへの入学意向を示した人は、4.0% (86人)であり、入学定員55人を上回っている。以下は属性別の結果である。

◇高校所在地別

- 大学所在地である「大分県」の高校在籍者からの理工学部 理工学科 応用化学コースへの入学意向は3.9% (1,630人中、63人)。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」の理工学部 理工学科 応用化学コースへの入学意向は7.1% (1,066人中、76人)。

◇高校卒業後の希望進路別

- 大分大学を受験・入学する可能性が高い「国立大学に進学」を考えている回答者の理工学部 理工学科 応用化学コースへの入学意向は4.3% (1,769人中、76人)。

◇興味のある学問系統別

- 理工学部 理工学科 応用化学コースと関連のある「理学」に興味がある回答者の入学意向は15.9% (328人中、52人)、「工学」に興味がある回答者の入学意向は7.5% (611人中、46人)であり、入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇理工学部の特色魅力度別

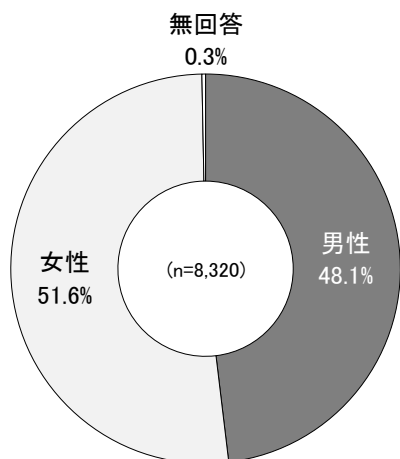
- 理工学部 理工学科 応用化学コースの特色である「特色L」に魅力を感じた回答者の入学意向は、7.0% (1,199人中、84人)と予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果

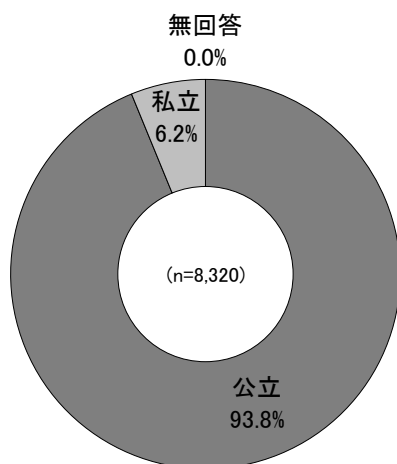


回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

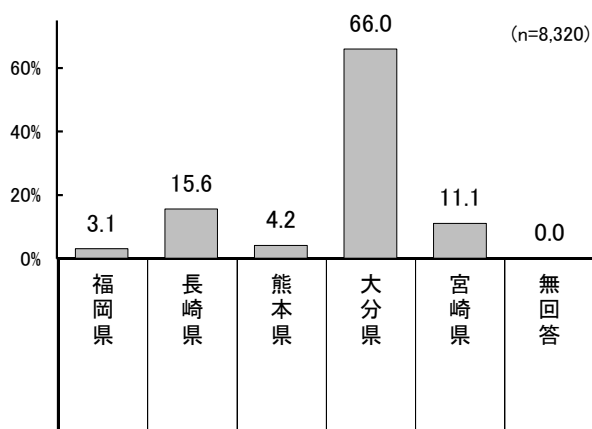
■性別



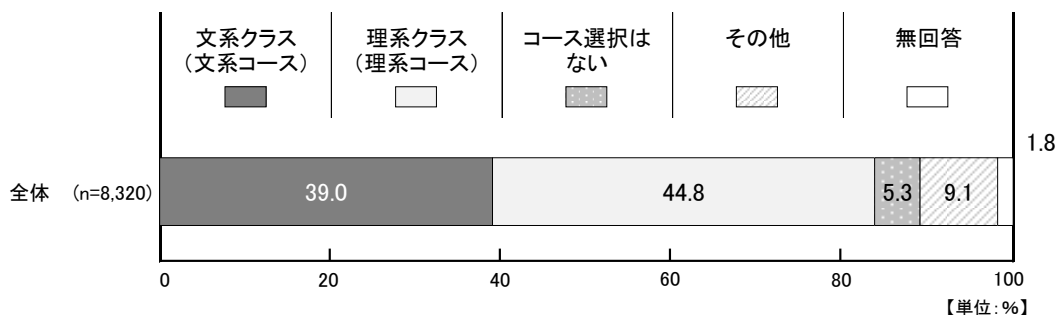
■高校種別



■高校所在地



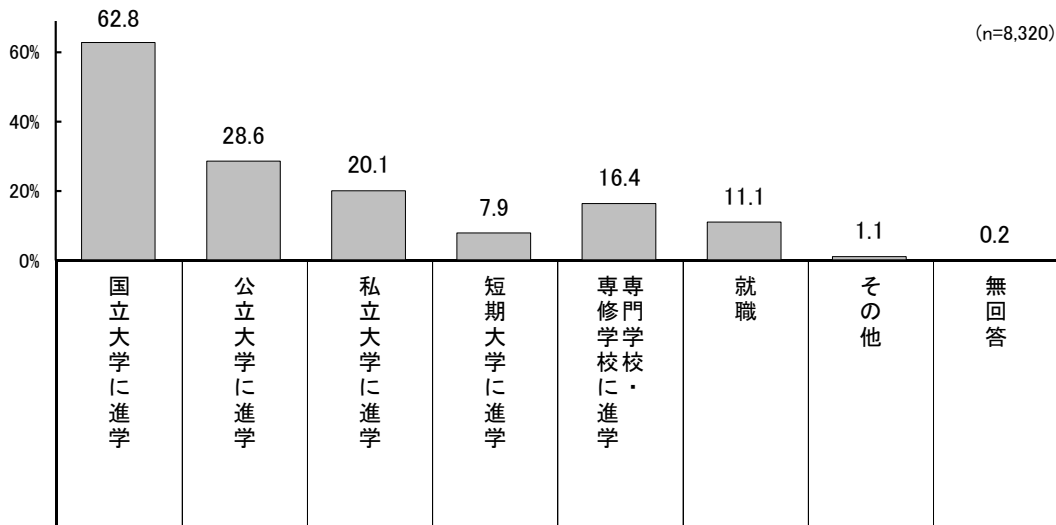
■所属クラス



高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

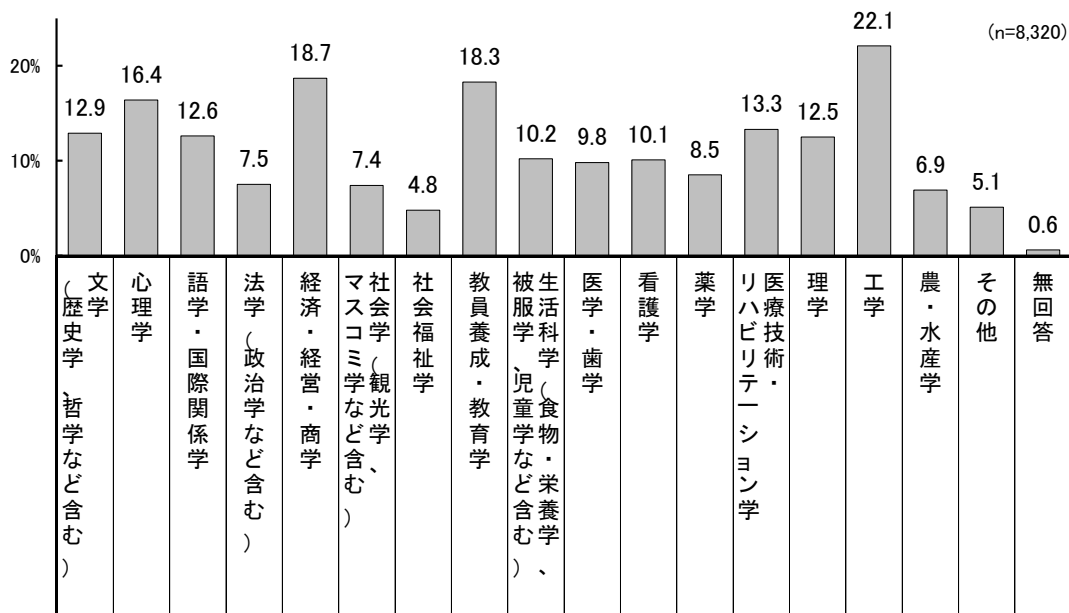
■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



■興味のある学問系統

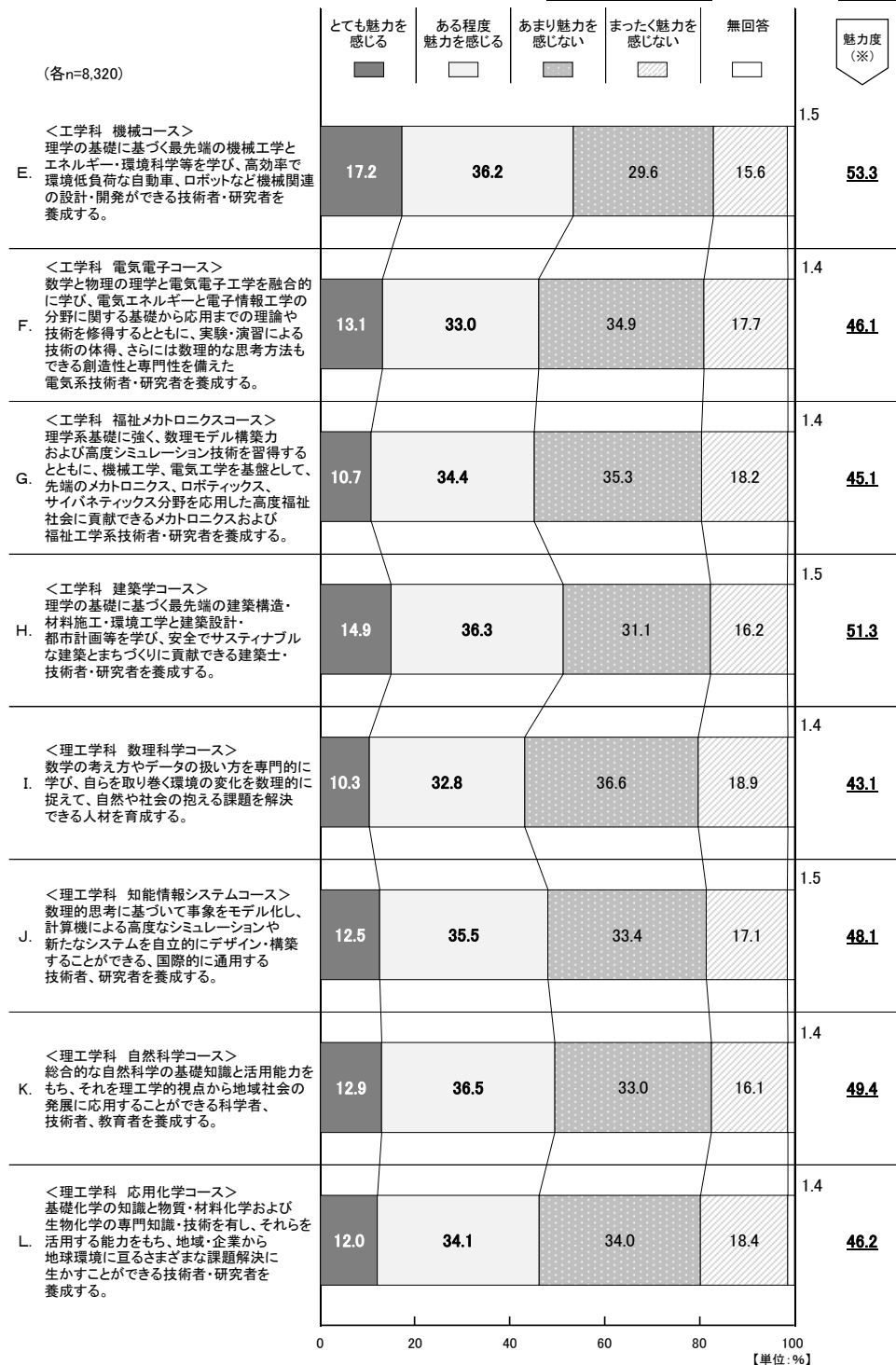
Q2. あなたは、現時点ではどのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



理工学部の特徴に対する魅力度

■理工学部の特徴に対する魅力度

Q4. 大分大学の新しい「理工学部」の各学科・コース(いずれも仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれの特色ごとに、あてはまる番号1つに○)



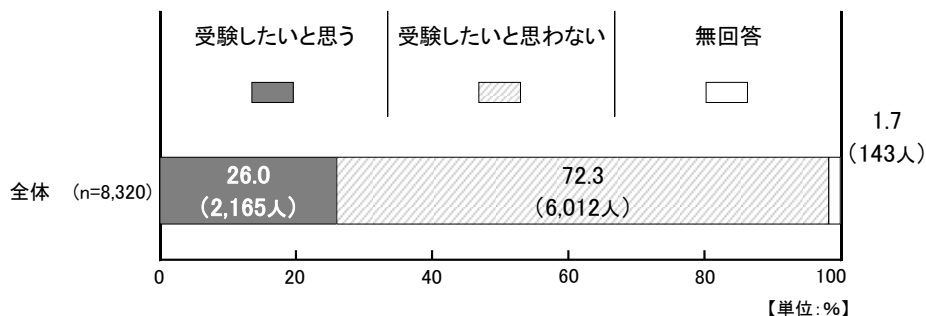
※魅力度＝「とても魅力を感じる」＋「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

新学部・学科を備えた大分大学への受験意向

■新学部・学科を備えた大分大学への受験意向

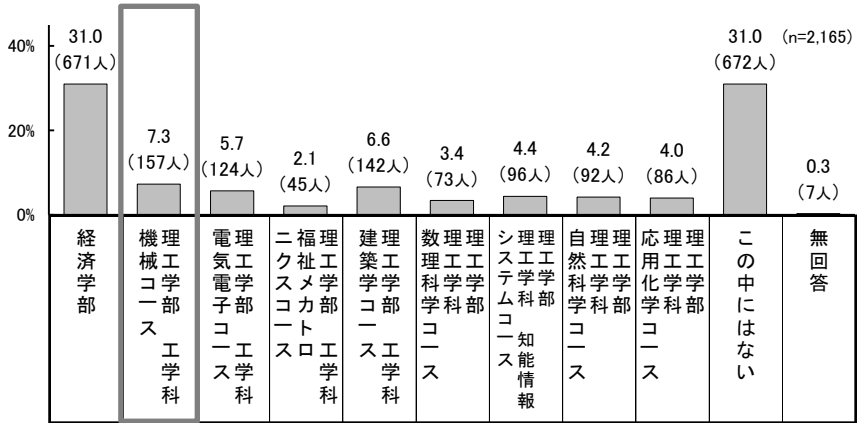
Q5. あなたは、新しい学部学科を備えた大分大学を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



理工学部 工学科 機械コースへの入学意向

■理工学部 工学科 機械コースへの入学意向

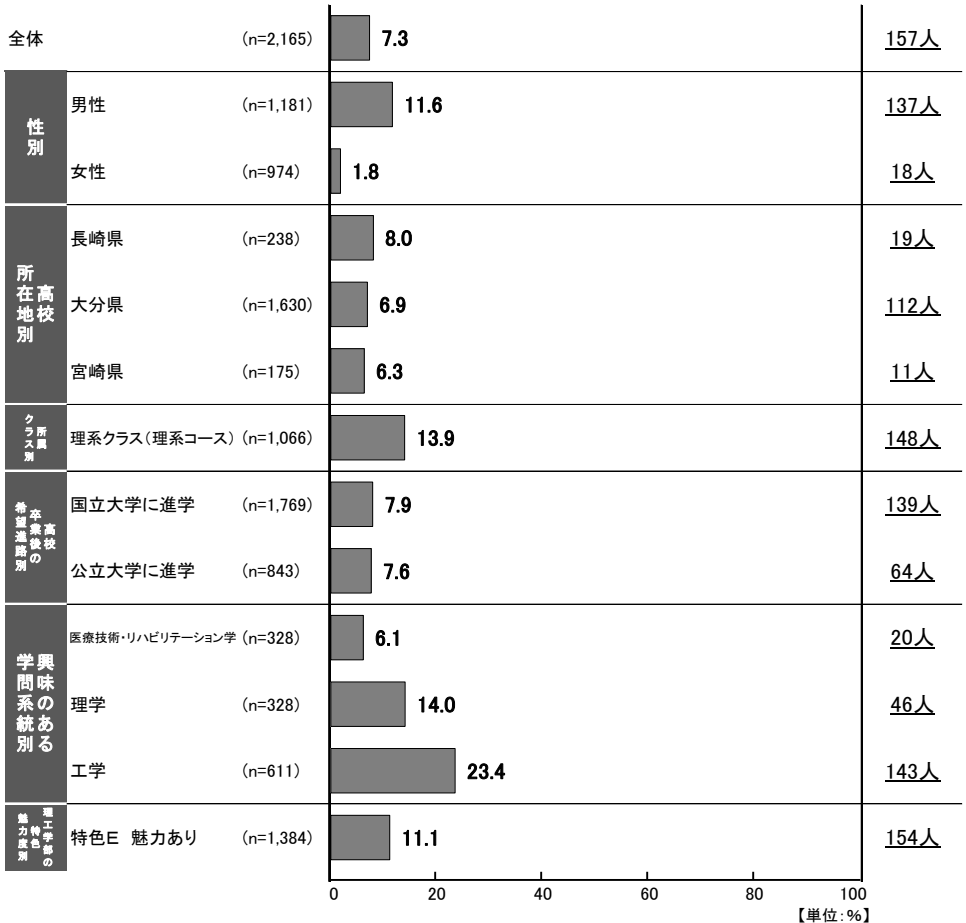
Q6. あなたは、大分大学を受験して合格したら、どの学部学科コースに入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



<属性別>

※Q5の新学期・学科・コースを「受験したいと思う」かつ
Q6の「理工学部 工学科 機械コース」に入学したいと答えた157人の回答

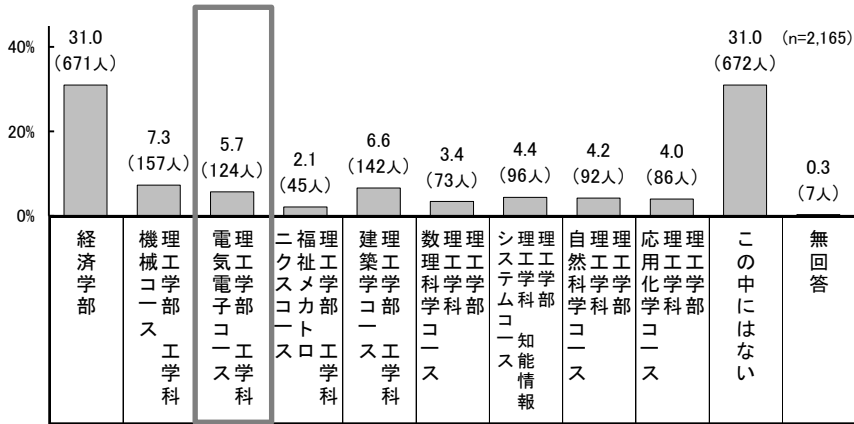
入学意向者数



理工学部 工学科 電気電子コースへの入学意向

■理工学部 工学科 電気電子コースへの入学意向

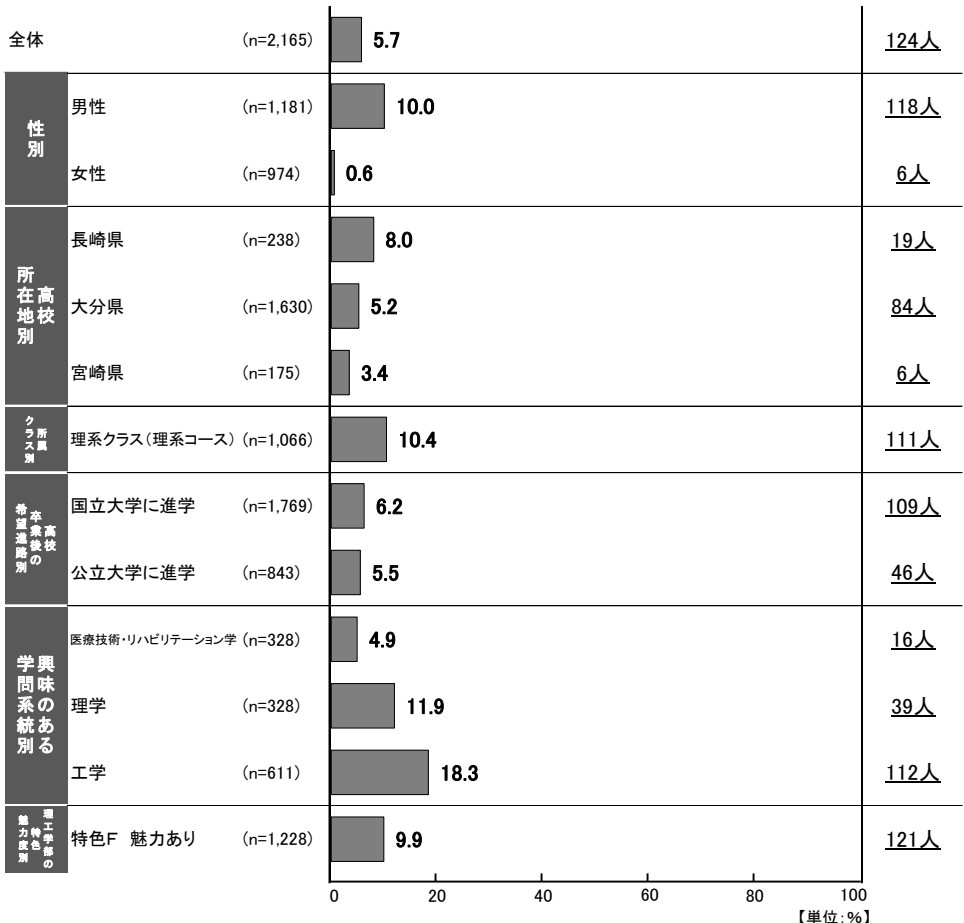
Q6. あなたは、大分大学を受験して合格したら、どの学部学科コースに入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



<属性別>

※Q5の「新学部・学科・コースを「受験したいと思う」かつ
Q6の「理工学部 工学科 電気電子コース」に入学したいと答えた124人の回答

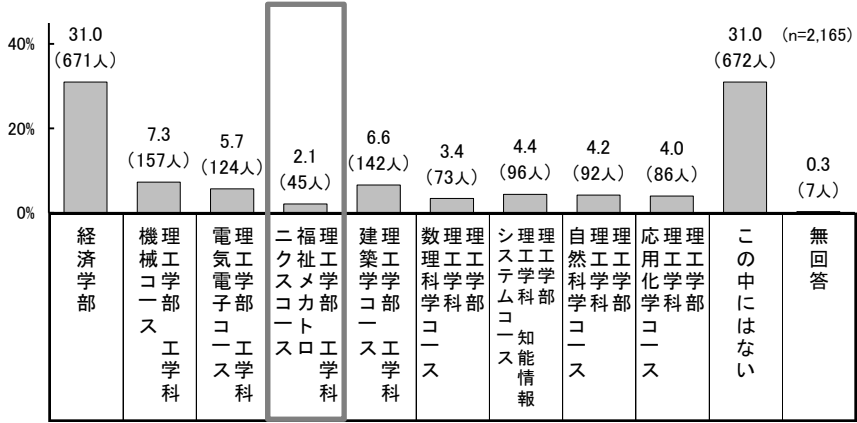
入学意向者数



理工学部 工学科 福祉メカトロニクスコースへの入学意向

■理工学部 工学科 福祉メカトロニクスコースへの入学意向

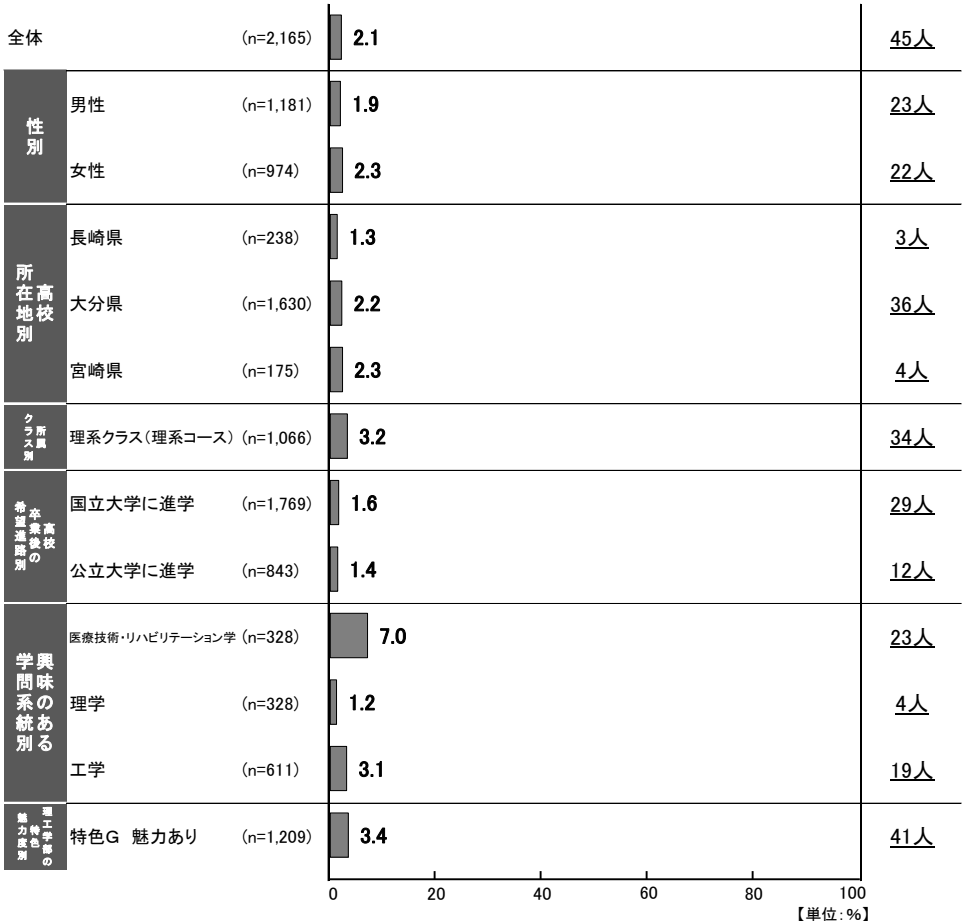
Q6. あなたは、大分大学を受験して合格したら、どの学部学科コースに入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



<属性別>

※Q5の新学部・学科・コースを「受験したいと思う」かつ
Q6の「理工学部 工学科 福祉メカトロニクスコース」に入学したいと答えた45人の回答

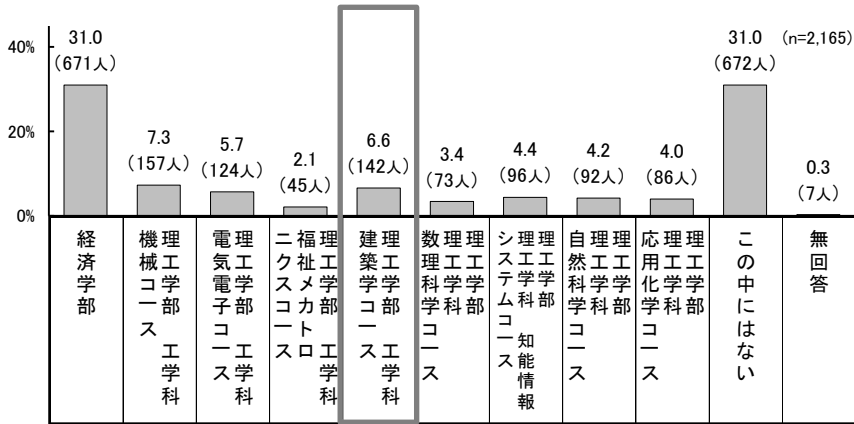
入学意向者数



理工学部 工学科 建築学コースへの入学意向

■理工学部 工学科 建築学コースへの入学意向

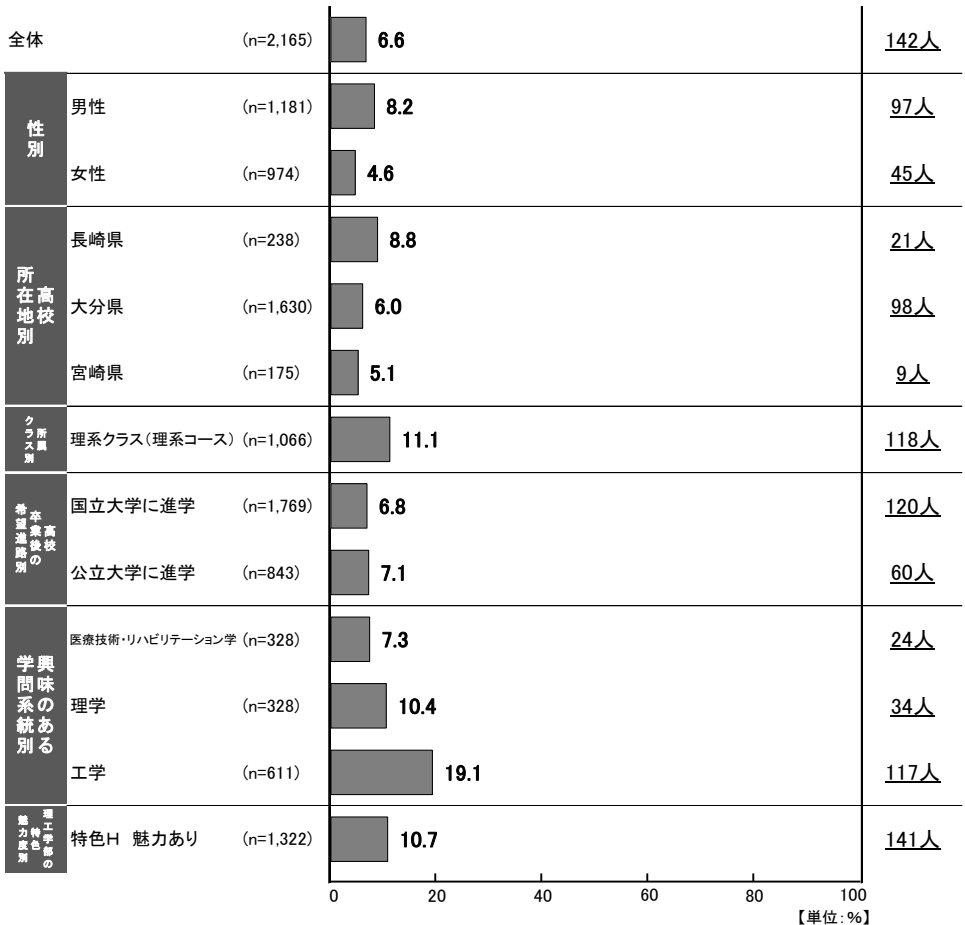
Q6. あなたは、大分大学を受験して合格したら、どの学部学科コースに入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



<属性別>

※Q5の「新学部・学科・コースを「受験したいと思う」か?」
Q6の「理工学部 工学科 建築学コース」に入学したいと答えた142人の回答

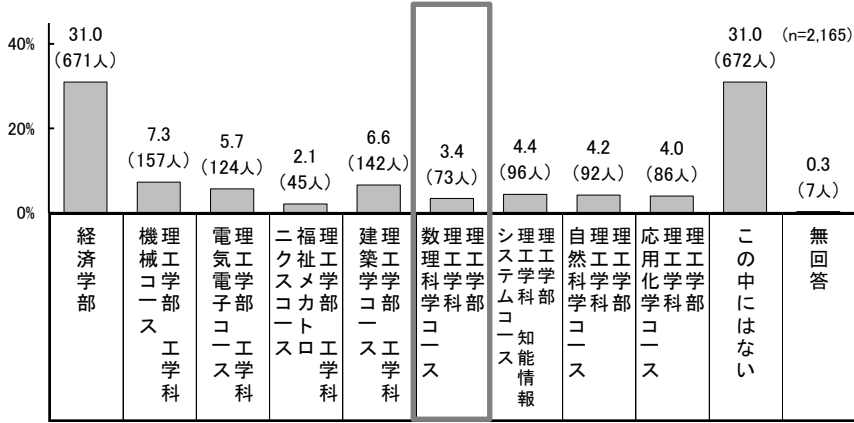
入学意向者数



理工学部 理工学科 数理科学コースへの入学意向

■理工学部 理工学科 数理科学コースへの入学意向

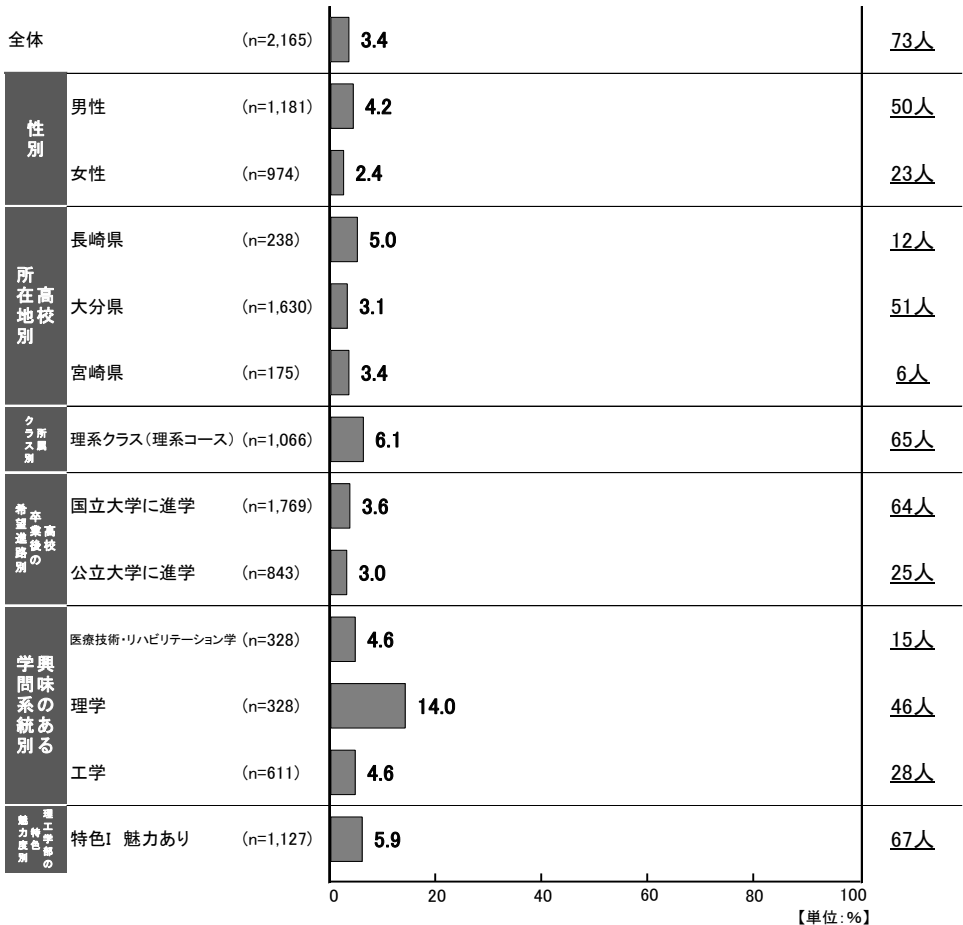
Q6. あなたは、大分大学を受験して合格したら、どの学部学科コースに入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



<属性別>

※Q5の新学部・学科・コースを「受験したいと思う」かつ
Q6の「理工学部 理工学科 数理科学コース」に入学したいと答えた73人の回答

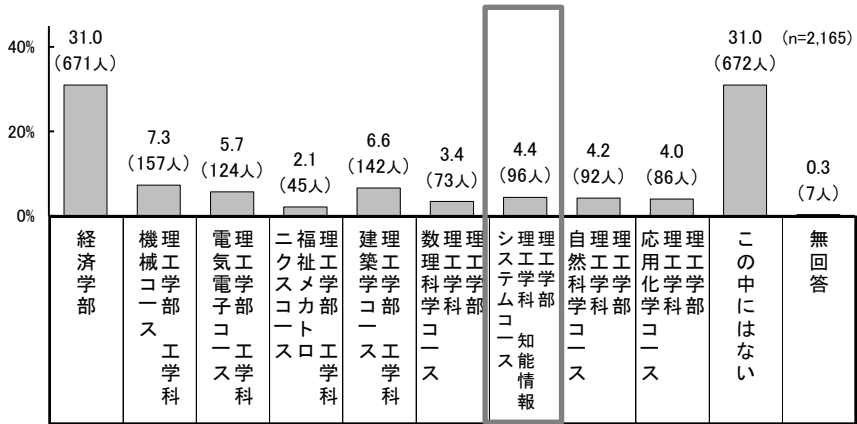
入学意向者数



理工学部 理工学科 知能情報システムコースへの入学意向

■理工学部 理工学科 知能情報システムコースへの入学意向

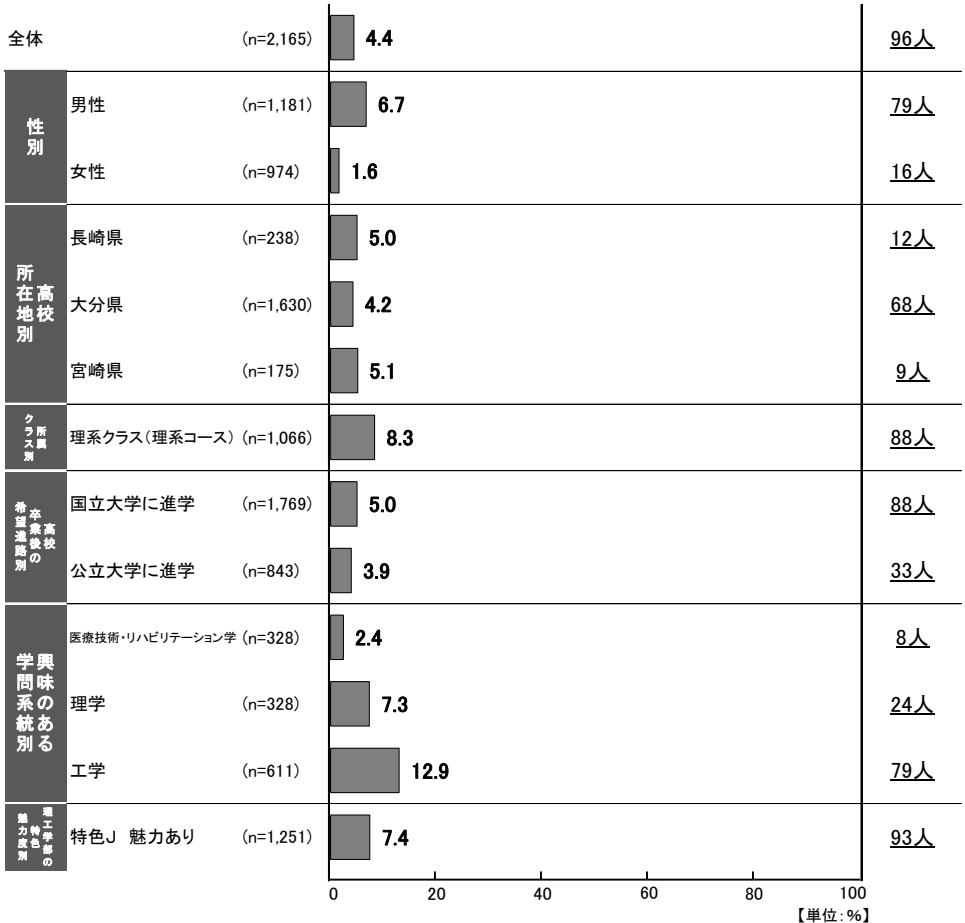
Q6. あなたは、大分大学を受験して合格したら、どの学部学科コースに入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



<属性別>

※Q5の新学期・学科・コースを「受験したいと思う」かつ
Q6の「理工学部 理工学科 知能情報システムコース」に入学したいと答えた
96人の回答

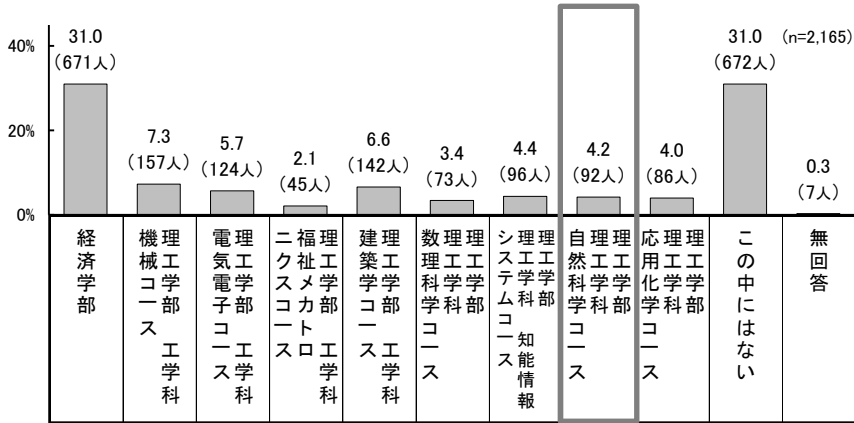
入学意向者数



理工学部 理工学科 自然科学コースへの入学意向

■理工学部 理工学科 自然科学コースへの入学意向

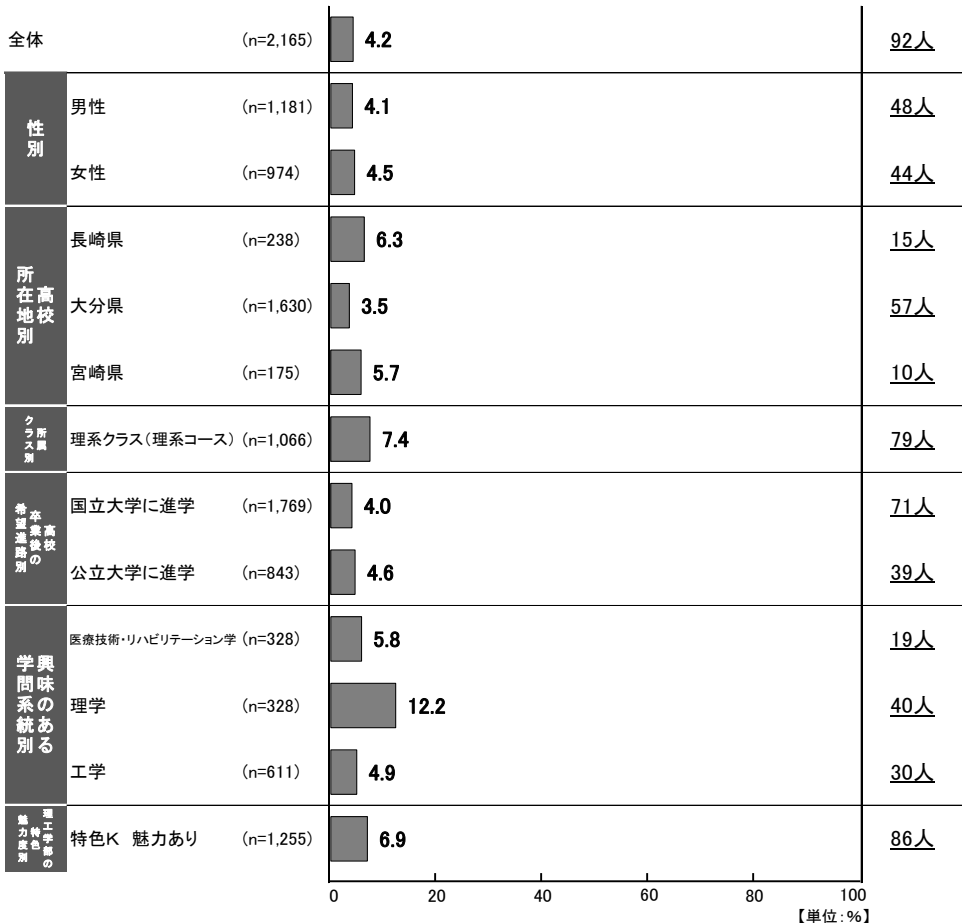
Q6. あなたは、大分大学を受験して合格したら、どの学部学科コースに入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



<属性別>

※Q5の新学期・学科・コースを「受験したいと思う」かつ
Q6の「理工学部 理工学科 自然科学コース」に入学したいと答えた92人の回答

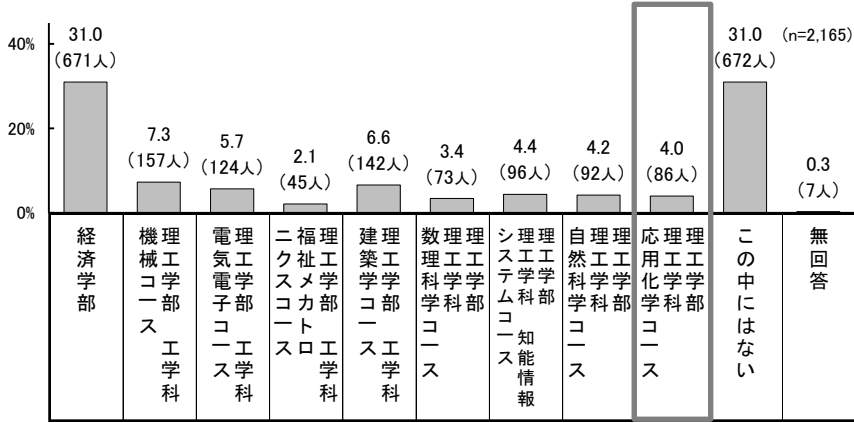
入学意向者数



理工学部 理工学科 応用化学コースへの入学意向

■理工学部 理工学科 応用化学コースへの入学意向

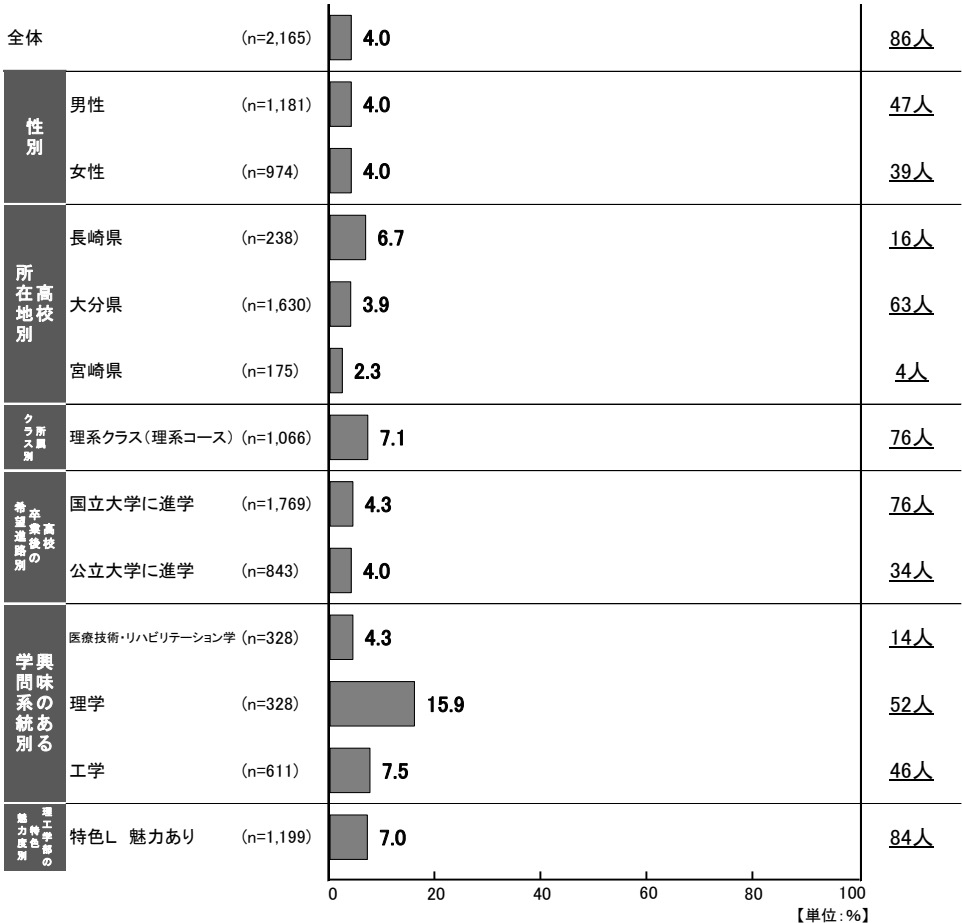
Q6. あなたは、大分大学を受験して合格したら、どの学部学科コースに入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



<属性別>

※Q5の「新学部・学科・コースを「受験したいと思う」か?」
Q6の「理工学部 理工学科 応用化学コース」に入学したいと答えた86人の回答

入学意向者数



卷末資料 調查票



高校生対象 調査票

大分大学 経済学部 事業共創学科、理工学部に関するアンケート

大分大学では2017年(平成29年)4月より、学部学科の構成を変更し、経済学部に新しく「事業共創学科」(仮称)を設置するとともに、現在の工学部を改組し、「理工学部」(仮称)を設置することを構想しています。このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどのご意見をお伺いし、大分大学の教育や構想中の新しい学部学科の内容をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありませんので、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートに記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性もあります。

記入要領

1. 回答は、あてはまる番号に「○」印をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず鉛筆又はシャープペンシルで濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
特に、「○」印は、番号丸枠からはみ出さないようにつけてください。

ここに○印をつけてください

ID 60

この欄には記入しないでください

良い記入例 ○ 文学 ○ 語学
○ 心理学 ○ 社会学

悪い記入例 9 文学
心理学

① 文学
② 心理学

● 文学
◎ 心理学

◎ 文学
◎ 心理学

◆はじめにあなた自身についてお聞きします。

F 1 以下のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○、もしくは[]内に記入してください。

性別 (1つに○)	① 男性	② 女性	学年 (1つに○)	① 1年生	② 2年生	③ 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県			[] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	① 文系クラス (文系コース)		③ コース選択はない			
	② 理系クラス (理系コース)		④ その他 (具体的に:)			

Q 1 あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

- ① 国立大学に進学 ④ 短期大学に進学 ⑦ その他 ()
② 公立大学に進学 ⑤ 専門学校・専修学校に進学
③ 私立大学に進学 ⑥ 就職

Q 2 あなたは、現時点ではどのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

- ① 文学 (歴史学、哲学など含む) ⑦ 社会福祉学 ⑫ 薬学
② 心理学 ⑧ 教員養成・教育学 ⑬ 医療技術・リハビリテーション学
③ 語学・国際関係学 ⑨ 生活科学 (食物・栄養学、被服学、児童学など含む) ⑭ 理学
④ 法学 (政治学など含む) ⑩ 医学・歯学 ⑮ 工学
⑤ 経済・経営・商学 ⑪ 医学・歯学 ⑯ 農・水産学
⑥ 社会学 (観光学、マスコミ学など含む) ⑰ 看護学 ⑱ その他 ()

高校生対象 調査票

大分大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2017年(平成29年)4月に学部学科構成を変更し、経済学部「事業共創学科」「理工学部」(いずれも仮称)を設置することを構想しています。

※ 次の質問は、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

◆大分大学の新しい学部学科についてお聞きします。

- Q3 新しい「事業共創学科」(仮称、設置構想中)を含め、大分大学の経済学部には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれの特色ごとに、あてはまる番号1つに○)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	例. ○○である。	→ ①	○ ②	③	④
経済学部	<u>＜事業共創学科＞</u> 商品・サービスの創造等による企業経営上の革新や、行政・NPO等による社会事業創造等の課題解決について、新たな価値創造(イノベーション)が求められる社会経済状況を理解した、組織の中でイノベーション強化に携わる人材を養成する。	→ ①	②	③	④
	<u>＜経済学科＞</u> 経済社会の諸現象について、歴史的・国際的背景を理解し、理論的に把握できる経済学的な考え方を身につけ、実証的・政策的観点を踏まえて諸課題の解決に貢献できる、グローバル化された経済社会で活躍できる人材を養成する。	→ ①	②	③	④
	<u>＜経営システム学科＞</u> あらゆる企業に通底する広範な経営学の知識を身につけることにより、企業経営上の課題に取り組み、適切な解決策を提案できる実践力を備えたビジネス人材を養成する。	→ ①	②	③	④
	<u>＜地域システム学科＞</u> 地域の経済社会や行政・法制度に関わる知識を十分に備え、グローバルな諸問題を総合的に理解し、地域社会の再生・活性化に資する方策を具体的かつ説得的に示すことができる人材を養成する。	→ ①	②	③	④

高校生対象 調査票

Q4 大分大学の新しい「理工学部」の各学科・コース（いずれも仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたほどの程度魅力を感じますか。
 （それぞれの特色ごとに、あてはまる番号1つに○）

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	例. ○○である。	→ ①	○ ②	③	④
理工学部	E. <工学科 機械コース> 理学の基礎に基づく最先端の機械工学とエネルギー・環境科学等を学び、高効率で環境低負荷な自動車、ロボットなど機械関連の設計・開発ができる技術者・研究者を養成する。	→ ①	②	③	④
	F. <工学科 電気電子コース> 数学と物理の理学と電気電子工学を融合的に学び、電気エネルギーと電子情報工学の分野に関する基礎から応用までの理論や技術を修得するとともに、実験・演習による技術の体得、さらには数理的な思考方法もできる創造性と専門性を備えた電気系技術者・研究者を養成する。	→ ①	②	③	④
	G. <工学科 福祉メカトロニクスコース> 理学系基礎に強く、数理モデル構築力および高度シミュレーション技術を習得するとともに、機械工学、電気工学を基盤として、先端のメカトロニクス、ロボティクス、サイバネティクス分野を応用した高度福祉社会に貢献できるメカトロニクスおよび福祉工学系技術者・研究者を養成する。	→ ①	②	③	④
	H. <工学科 建築学コース> 理学の基礎に基づく最先端の建築構造・材料施工・環境工学と建築設計・都市計画等を学び、安全でサステナブルな建築とまちづくりに貢献できる建築士・技術者・研究者を養成する。	→ ①	②	③	④
	I. <理工学科 数理学コース> 数学の考え方やデータの扱い方を専門的に学び、自らを取り巻く環境の変化を数理的に捉えて、自然や社会の抱える課題を解決できる人材を育成する。	→ ①	②	③	④
	J. <理工学科 知能情報システムコース> 数理的思考に基づいて事象をモデル化し、計算機による高度なシミュレーションや新たなシステムを自立的にデザイン・構築することができる、国際的に通用する技術者、研究者を養成する。	→ ①	②	③	④
	K. <理工学科 自然科学コース> 総合的な自然科学の基礎知識と活用能力をもち、それを理工学的視点から地域社会の発展に応用することができる科学者、技術者、教育者を養成する。	→ ①	②	③	④
	L. <理工学科 応用化学コース> 基礎化学の知識と物質・材料化学および生物化学の専門知識・技術を有し、それらを活用する能力をもち、地域・企業から地球環境に亘るさまざまな課題解決に生かすことができる技術者・研究者を養成する。	→ ①	②	③	④

※上記E~Lの特色は現在構想中のものであり、変更になる可能性もあります。

※裏面へ続く→

